

専門性を活かした地域活動への取り組み

— 江津市におけるワークショップ活動事例 —

島根職業能力開発短期大学校 竹口 浩司

Initiatives for local activities that utilize expertise -"Workshop" activity example in Gotsu City-
TAKEGUCHI Koji

要約 島根県江津市にある島根職業能力開発短期大学校の住居環境科指導員として赴任してからの8年間に参加した様々な地域活動の中から専門性を活かしたワークショップの活動事例を報告するとともに活動内容について考察する。

I はじめに

2013年に島根職業能力開発短期大学校（以下、当校という）専門課程の住居環境科指導員として、江津市に赴任した。その頃、東日本大震災の影響もあり、都市部から地方へとU・Iターンの若者が増える傾向にあった。また、地方では過疎化が進むなか、地元志向も高くなり地方創生や地域活性化という言葉も聞くことが多くなっていた頃である。

当校が在する人口2万3千人程の島根県江津市でも地域活性化や過疎化を防ぐためU・Iターン者を中心として地域課題に対して様々な活動に目が向けられるようになっていた。その活動の中でも空き家や空き店舗の改修、イベント設営等において木工や建築分野の専門性から多方面から相談を受け、様々な活動に参加する機会を得るようになった。

本稿では、参加した地域活動の中でも課題に対し、ワークショップという手法を実践した事例を取り上げる。また、地域課題として竹林整備や生涯学習に関する専門性を活かしたワークショップも含めて8年間の地域活動から15の事例を報告する。

II ワークショップについて

ワークショップという言葉は、ビジネスや教育、問題解決手法として広く使われる言葉であり、様々な定義も存在する。本来の意味としては、作業場という意味であり、活動においては、複数で何かを行うことをワークショップと認識されている。

本稿では、複数で何かを行う活動をワークショップとする。特に当校の学生や一団体のみで行うものではなく、地域と共同し、学校や地域団体、ボランティアやイベント参加者等多くの者が参加したワークショップの中から、専門である建築分野の知識と技術を活かしたものづくりを主とする活動を取り上げる。様々な活動が、能力開発の機会であり、地域と学校、学生が繋がるきっかけにもなっている。

III 活動事例

1 竹灯籠

2013年江津市に赴任してから初の地域活動が江津駅前商店街の「手つなぎ夜市」イベントである。商店街の通りに竹で製作した灯籠を飾りイベントを盛り上げるのが目的である。

ワークショップとしては、ボランティアを募り、学生と商店会との共同で竹の伐採から加工、設置を行った。また、このワークショップで製作した竹灯籠は評判となり、様々なイベントでも使用されるようになった。これを機に江津市や商店会等、地域に認識され始めることになる。



図1 竹灯籠製作と設置後の様子

2 旧銭湯を活用したイベント

2013 年度総合制作実習として江津駅前商店街にある旧銭湯をリノベーションする取り組みを行った。その空間を利用し、様々なイベントを実施し、ワークショップも多数行うことになる。

2014 年夏から秋にかけて商店会と学生、地域ボランティアの方と協力し、銭湯のライトアップや、間仕切りの解体ワークショップ等を行った。

商店会や地域ボランティアと駅前の空き地を利用したイベントでは、竹テント等も製作した。総合制作実習から様々なワークショップやイベントを通じて地域内外との繋がりが生まれる場となる。



図2 竹テントと解体作業



図3 竹灯笼のライトアップ

3 モザイクタイル

2014 年 12 月 6、13 日、約 13500 個のモザイクタイルを使用した銭湯の看板製作ワークショップを実施した。ワークショップ参加者は、タイルの設計図を見ながら決められた色のタイルを貼る実際のタイル施工と技術的には同じであり、専門性を活かし、タイルのデザインから施工指導を行った。

2 日間で 50 名程が集い、予定した時間で作業を終えることができた。看板を設置することで活動の認知度を広め、皆で一つのを完成させることにより今後も関わってもらえる関係性を作れた事例である。



図4 ワークショップの様子

4 リノベーションキャンプ

2015 年 5 月 2 日～9 日ゴールデンウィークを利用した 8 日間のワークショップであり、携わったなかでは最大のものになる。東京からの 1 ターン者がカフェとパン屋を開くため、江津市やデザイン会社が協力し、地域内外に広く参加者を募り、作業だけでなく食や旅も含めたイベント型のワークショップツアーを開催した事例である。

参加者は、中国地方以外からも集まり東京や大阪等延べ 150 名を超えた。相乗効果としてワークショップ自体が評判となり全国版の雑誌にも掲載された。

作業としては、手間は掛かるが素人でも上手にできるものを検討し計画した。解体作業から木工作业、塗装作業、左官作業、壁紙作業、照明から家具まで一連の作業が盛り込まれており、各分野の職人に指導を仰ぎながら参加者で分担し作業を進めた。また、仕上げには焼き物や土、流木、和紙等、地産材を活用していることも特徴である。

参加者の中には、東京から 1 ターンする者も現れ、江津の地域活動を代表する取り組み事例として知られるようになった。

2015 年 6 月 21 日には庭師の指導のもとハーブガーデンづくりのワークショップを開催し、7 月にはパン屋が併設するカフェ「蔵庭」⁽¹⁾がオープンした。

表1 スケジュール

月 日	午前の部	午後の部
5月2日	軽作業	軽作業
5月3日	床タイル貼り	床タイル貼り
5月4日	土壁塗り	土壁塗り
5月5日	壁塗り	壁塗り
5月6日	壁塗り	壁塗り
5月7日	照明制作	照明制作
5月8日	タイル貼り	タイル貼り
5月9日	クリーニング	クリーニング



図5 リノベーションの様子

5 リノベーションキャンプ 2016

2015年のリノベーションキャンプの参加を機に江津市にIターンし、ゲストハウス「アサリハウス」⁽²⁾のオーナーとなった方が2016年リノベーションキャンプの主催者となり実施された。

築100年を超える古民家をリノベーションするため解体作業から、床下地施工、タイル仕上げ、藍染のクッション製作や障子の貼替え等5月3日～5日と6月11、12日の2回に分けて行われた。

ゴールデンウィークだけで延べ100人、6月も50人以上の参加者が集まった。特に6月は、当校の学生自治会がオリエンテーリングを計画し、ワークショップに参加することで、他の参加者と交流会を行うなどのコラボレーションも実施された。



図6 リノベーションの様子

6 つのみやっこ広場

2016年8月と11月に二宮町放課後子供教室と島根県西部県民センターとの共同で児童教室の子供と空き地の活用を行った。

8月19日、児童教室の子供54名と学生ボランティアにより、空き地の木々に鳥小屋を設置。11月26日には、加工した木材を組み合わせて製作するジャングルジムを考案し、児童教室やサッカークラブ、地域住民により組み立てた。製作物は色や形など自由度を持たせるようにし、学生ボランティアが児童をサポートすることで教える立場を経験させる機会を作れた事例である。



図7 鳥小屋製作とジャングルジム製作の様子

7 竹の座禅堂

2016年11月4日、島根県浜田市金城町で樹冠ネット

ワーク⁽³⁾と地域住民が参加し、竹林整備を兼ね竹で座禅堂の製作を行った。樹冠ネットワークは、江津市内を中心に里山に残る昔の知恵や食、伝統を伝える活動や竹林整備を行っている団体である。

当校では授業の一環として建築の知識と技術を活かした竹の利用に取り組んでおり、毎年樹冠ネットワークと共同で活動している。座禅堂は、竹の引張力を活かしたドーム構造であり、樹冠ネットワークの方から指導を受け、竹の伐採から加工、組み立てを行った。

この経験から総合制作実習で竹をテーマとした課題も設定されている。



図8 座禅堂製作の様子

8 粋の市会場設営

2017年5月5、6日に行われる「粋の市」イベント開催に合わせて5月4日に主催者と地域の方、学生ボランティアによる会場設営ワークショップを開催した。「粋の市」⁽⁴⁾とは、木工場と古民家を会場として地域の食やモノを集めたマーケットイベントである。

旧瓦工場や古民家にあった古い棚や机、建具をリペアして会場を作り上げるイベント設営をイベント化したワークショップである。ものづくりの技術を活かし、学生時代の学園祭前日を思い返され、他のイベントでもお勧めしたい事例である。



図9 会場設営の様子

9 竹のHPシェル構造

2017年11月24日、学生と樹冠ネットワークによる竹の活用ワークショップである。専門分野である建築構造の技術を応用し、HPシェル構造を活用した竹のオブジェの製作を行った。

作業時間はおよそ5時間と決められており、その時

間内に完成させるため、工程を考えデザインしたオブジェである。里山の竹害問題や昔からの竹の活用法、シュロ紐の結び方等を教わりながら、世代の枠を超えたワークショップである。



図 10 製作の様子

10 空き店舗のリノベーション

2018 年から始まった江津市本町にある空き店舗、旧印刷店「ときわ印刷」を地域拠点としてワークスペースにリノベーションする活動である。

主に江津工業高校の卒業課題として高校 3 年生が作業を行うが、作業によっては本町まちづくり推進協議会やまちづくり会社イワミノチカラ等と共同し、参加者を募ってワークショップを開催している。

2018 年 4 月 21 日高校生と当校学生、地域ボランティアが参加し解体ワークショップ、6 月 23 日には、仕上げ作業のワークショップを行った。その後も地域ボランティアや高校生により作業は進められた。「いわみん」⁽⁵⁾による web 募集や全国で旅とお手伝いを融合させた「おてつたび」⁽⁶⁾でも参加者を募集し、様々な媒体を活用しながらワークショップを実施している。



図 11 解体作業と仕上げ作業の様子

11 ダッピーねぶた

2018 年に開校 60 年を迎える江津高校と共同し、江津高校のマスコットキャラクターの「ダッピー」ねぶたを製作するワークショップである。ねぶた製作の指導者を迎え、夏休みのおよそ 1 カ月をかけ、高さ 3m のねぶたの製作を行った。

参加者は、当校学生と江津高校生、江津市の共同で作業を行い、主に骨組みを当校学生、紙貼りを江津高校が担当した。参加者は限定されるが地元高校生との

共同作業の好事例として取り上げる。



図 12 ダッピーねぶた作業風景と成果物

12 INAKA イルミ

2018 年 11 月 7 日、樹冠ネットワークとの竹活用ワークショップである。旧 JR 三江線の宇都井駅で毎年開催されている「INAKA イルミ」⁽⁷⁾に向けて竹のイルミネーション製作を行った。

参加者は当校学生と樹冠ネットワーク、島根県立中央高校や INAKA イルミ実行委員会との共同作業である。11 月 23、24 日に開催された INAKA イルミでは約 50 基の竹イルミにキャンドルを灯し、イベントに貢献することができた。



図 13 竹イルミ作業風景と成果物

13 都野津駅のリノベーション

2020 年 10 月 30、31 日、JR 都野津駅創設 100 周年を記念し、都野津まちづくり協議会、江津高校、江津工業高校のコンソーシアム事業として駅舎のリノベーションを実施した。

作業は内壁の塗装であり、1 日目に下地処理、2 日目は高校生に塗装を指導し、高校生が参加者をサポートしながら作業を行うワークショップを開催した。参加者とは間接的に関わる形でしたが、高校生が主体となって作業を進めることができた良い事例である。



図 14 都野津駅イベントの様子

14 幼稚園の遊具製作

2020年11月1日、江津市跡市町里山子ども園わたぼうしの遊具製作を行った。参加者は、いわみんの体験プログラムで参加者を募り20名程が集まった。主に幼稚園から小学生とその保護者である。

子供の遊びともものづくりを兼ねつつ、親がサポートしながら製作を進めた。作業は、建材の運搬に使用されるパレットを利用し、のこぎりとビスで簡単に組み立てられる構造でありながら自由度と今後の発展性を持たせた遊具である。

2021年1月31日には、わたぼうしと地域で生涯学習に取り組む「わくわくラボ」の体験プログラムとして実施され、参加者は30名程、小学生から大人まで各自が自主的に作業を行い完成させた。中でも子供が自ら考えブランコや手摺りまでを作ってしまったことには驚かされた。



図15 パレット遊具製作の様子

15 有福温泉の竹オブジェ

2020年11月5日、樹冠ネットワークと江津工業高校、有福温泉まちづくり協議会と共同し、温泉街に竹

のオブジェとベンチの製作を行った。

江津工業高校とは、都野津駅リノベーションや林業体験等も一緒に取り組んでいる。地域活動を通じて高校生に当校を知ってもらいたい良い機会であり、実際に入学に結び付いた高校生もいる。

製作後はライトアップもされ、専門性を活かして景観形成に貢献した事例であり、毎年恒例となる。



図16 竹オブジェ製作の様子

IV 考察

前章に挙げた15の事例について専門性や活動内容、広報媒体等を整理し表にまとめる。(表2)

1 専門性について

専門性では、竹工作を除けば木工作業が多い事がわかる。ものづくり教室でののこぎりや釘を使った作業は、参加者も内容がわかりやすく多くの場所で行われており、ワークショップでも取り入れやすい。

モザイクタイルや都野津駅のリノベーションのようにタイル作業や塗装作業もものづくり体験教室でも色

表2 ワークショップ事例一覧

No.	名称	専門性	活動内容				広報媒体			実施日			主催者		参加者		
			イベント 設置	企画	課題解決	竹の 活用	SNS web等	回覧板 会員等	ポスター チラシ	募集 サイト	年	月 日	期間	団体名	運営者	主な参加者	人数
1	竹灯笼	竹工作	○			○					2013年	7月26日	1日	商店会	商店会員	ボランティア	20
2	銭湯イベント	解体作業 リノベーション	○		○		○	○			2014年	通年	1年	銭湯プロジェクト	実行委員	一般	20
3	モザイクタイル	タイル作業		○			○	○	○		2014年	12月6,13日	2日	銭湯プロジェクト	実行委員	一般	50
4	リノベーション キャンプ	解体作業 リノベーション			○		○	○	○		2015年	5月2~9日	8日	蔵庭	実行委員	一般	150
5	リノベーション キャンプ2016	解体作業 リノベーション			○		○	○	○		2016年	5月3~5日 6月11,12日	5日	アサリハウス	実行委員	一般	150
6	つのみやっこ広場	木工作业			○				○		2016年	8月19日 11月26日	2日	二宮町放課後子供教室 島根県西部県民センター	ボランティア	小学生	60
7	竹の座禅堂	竹工作 ドーム構造				○			○		2016年	11月4日	1日	樹冠ネットワーク 金田町住民	会員	地域住民 ◎カレッジ生	30
8	粋の市	木工作业	○								2017年	5月5,6日	2日	粋の市	実行委員	ボランティア	20
9	竹のHPシェル構造	竹工作 建築構造			○	○			○		2017年	11月24日	1日	樹冠ネットワーク ポリテクカレッジ	会員	◎カレッジ生	30
10	旧印刷店の リノベーション	解体作業 リノベーション			○				○		2018年	4月28日 6月23日	2日	本町まちづくり協議会 島根県立江津工業高校	実行委員	高校生	30
11	ダッビーねぶた	木工作业			○						2018年	7~8月	1ヶ月	島根県立江津高校 ポリテクカレッジ	実行委員	高校生 ◎カレッジ生	不明
12	INAKAイルミ	竹工作	○		○	○			○		2018年	11月7日	1日	樹冠ネットワーク、ポリテクカレッジ INAKAイルミ、島根県立中央高校	実行委員	会員、高校生 ◎カレッジ生	30
13	都野津駅の リノベーション	塗装作業	○	○	○		○	○	○		2020年	10月30,31日	2日	江津高校、江津工業高校 都野津まちづくり協議会	実行委員	一般	100
14	幼稚園の遊具製作	大工作业		○	○	○	○	○	○		2020年 2021年	11月1日 1月31日	2日	幼稚園わたぼうし わくわくラボ、いわみん	実行委員	一般	50
15	有福温泉 竹オブジェ	竹工作			○	○			○		2020年	11月5日	1日	有福温泉まちづくり協議会、樹冠ネットワーク 江津工業高校、ポリテクカレッジ	実行委員	地域住民、高校生 ◎カレッジ生	50

◎カレッジ生については授業の一環として行ったものに限る。学生が自主的に関わったものはボランティアや一般に含む。

※人数はおよその延べ人数

の選択や塗り方などを工夫すると子供から大人まで年齢や技術を問わず楽しく作業が行われる。しかし、持ち帰り等を想定すると乾燥時間等が難しく課題もある。

事例のようにみんなで一つのものを作るワークショップでは、様々な活動の醸成も一つの目的である。看板製作やリノベーションキャンプ、都野津駅、ダッピ―ねぶた等製作以上の成果を生み出すことができた事例もある。しかし、参加者は未経験者であり、一つのものを作り上げるには、デザイン力と工程計画、指導力が必要である。そこで指導員としての経験が様々なワークショップにおいて実践されている。

2 活動内容について

活動の初期は、U・Iターンの若者が中心となり、地域活性化を掲げるワークショップが多い傾向にある。事例としては、銭湯プロジェクトやリノベーションキャンプになる。このような取り組みは交流も生れ、ワークショップが広報にもつながり、地域活性化の一役を担う活動である。

また、近年では地域課題と教育がつながってきており、都野津駅やわたぼうし、有福温泉のワークショップがある。主に高校と地域が連携し、地域課題の解決を模索したワークショップが開催されている。交流人口や地方創生の動きもあり、学校を飛び出し地域を舞台とする教育が増えつつある。小学生には創造性や自主性を育てることを目的とし、大人は生涯教育として学びを取り上げている活動が多い。当校学生にとっては、多くが江津市以外の出身であり、地域を知るきっかけとして必要な活動になっている。

3 広報媒体について

SNS は必須である。特に江津市では facebook の活用が多い。全国的にも地域活動等の広報媒体として活用頻度は高い傾向にある。イベント内での企画開催以外は主催者側のコミュニティが大きく寄与する傾向にある。また、江津市の特徴として地域の回覧板の効果はかなり高いこと、学校への投げ込みも効果が高いと実感している。

以上のことから、広報についても地域性がとても強い印象がある。

4 能力開発について

様々な事例において、機構で培った離職者訓練や専門課程の実習と類似するところが多い。殆どの参加者

が未経験者であり、複数の参加者を見ながら道具の使い方、安全性、スケジュール管理等、普段の訓練業務の新たな展開としてとても有意義な活動である。

また、作業においては専門性の拡大にもつながる。特に、総合制作実習課題において竹をテーマとした課題やリノベーション等にも取り組み、ワークショップを通じて体験できたことが活かされている。

学生にとっても地域で活動する経験は能力開発や人材育成に大きく寄与する。技術を活かし、製作物への責任を負う機会であり、学内だけで完結するものづくりとは安全面や完成度に対する心構えが違って見える。

V おわりに

ワークショップでの経験を整理することで社会ニーズやデザインが変化していることも実感できる。地域活動を通じて新たな能力開発の分野、課題授業、総合制作実習の課題設定として参考になれば幸いである。

15 の事例の他にも当校が実践している空き店舗のリノベーションや社の改修等もあるが、ものづくりの専門性が企業のみでなく、地域活動においても必要とされるカレッジの在り方を模索し、山陰地域にある当校の魅力として広めたいと思う。

最後に多くのワークショップの機会を与えて頂いた関係者の皆様、多くのフィールドが存在する江津市に感謝申し上げます。

【参考文献】

- (1) 蔵庭 (URL 参照 2022-03-18)
<https://kuraniwa.jp/>.
- (2) アサリハウス (URL 参照 2022-03-18)
<http://52-ghs.com/>.
- (3) 樹冠ネットワーク (URL 参照 2022-03-18)
<https://www.mori-sanin-net.jp/sanka/jyukan.html>.
- (4) 粋の市 (URL 参照 2022-03-18)
<https://ikinoichi.themedia.jp/>.
- (5) いわみん (URL 参照 2022-03-18)
https://www.all-iwami.com/event/detail_1764.html.
- (6) おてつたび (URL 参照 2022-03-18)
<https://otetsutabi.com/>.
- (7) INAKA イルミ (URL 参照 2022-03-18)
<https://illumizikkouuzui.wixsite.com/website>.
- (8) 竹口浩司、専門性を活かした地域活動への取り組み、島根職業能力開発短期大学校紀要、第5号、2021年、pp.50-57。